

令和2年度 学校評価(自己評価) 兵庫県立こやの里特別支援学校

学校目標 「子どもが育つ学校～こころ・からだ・きずな」

学校教育方針

「児童生徒一人ひとりの可能性を可能な限り伸ばし、社会の一員として自立し、自己

令和2年度 学校自己評価目標

- (1)安全・安心で美しい学校をめざします。
- (2)学校・家庭・地域・関係機関との連携の充実を図ります。
- (3)校務の情報化推進を図り、効率的な校務運営を行います。
- (4)校内研修を充実させ、教職員の資質向上を図ります。
- (5)社会的自立に向けたキャリア形成の支援に努めます。

	学部・分野目標	具体的な取り組み	評価指標	達成状況(今年度実績)
小学部	1 キャリア教育における挨拶を重視し、児童が自分なりの方法で挨拶や呼名に対する応答ができるように指導支援する。	1 挨拶や呼名に対して、発声や挙手、サインやお辞儀といった個に応じた方法で応答ができるように支援を行う。	1 挨拶や呼名に対して児童一人ひとりが自分なりの方法で応答ができるように支援することができたか。	1 今年度は朝の会などの場面で握手やハイタッチでの挨拶を控えた。一定の距離で挨拶や呼名をし、「はい」の返事や挙手、サインを使って返答できるよう言葉かけを行った。挨拶運動を実施したり日常的に繰り返し支援する中で、できるようになってきた児童には、自分からの返答を待ち、できたらその場で褒める支援を継続している。
	2 キャリア教育の中の清潔を重視し、児童がマスクの着用に慣れ、手洗いうがいができるように指導支援する。	2 イラストによる視覚支援や教材を用いてマスクの着用、手洗いうがいの方法を促す。登校後、給食前後等、手洗いうがいのタイムをスケジュールの中に設け習慣化する。学校での取り組みの様子を家庭にも伝え、個々に応じた方法で支援する。(マスクの着用が苦手な児童には短時間の着用から始める。マスクが濡れて嫌がる児童には交換用を多めに用意する、等)	2 児童がマスクの着用に慣れるための適切な支援ができたか。手洗いうがいのタイムを設定して取り組むことができたか。通信や懇談で学校の取り組みの様子を保護者に伝え、家庭での様子も確認できたか。	2 コロナ対策として、口を覆ってマスクを着用する習慣が身につくよう、その場で繰り返し指導した。口元を覆うように着用する指導を今後も継続していく必要がある。マスクが濡れてしまう場合でも、保護者に交換用マスクのご協力を頂き、新しいマスクに交換し清潔に過ごせるよう支援した。毎日のスケジュールに手洗いうがいのカードを貼って視覚支援をし、自らスケジュールを確認して、登校後や教室へ戻った後に取り組み指導を積み重ねた。うがいは感染症対策が十分に達成しにいたため、取り組みを控えたクラスもある。手洗いは、授業で手洗いの方法を丁寧に指導し、「手洗いの歌」で手洗いの動作の定着を図った。個々の取り組みや様子、健康状態を含めた家庭での様子については、個々の連絡帳を通じて保護者と情報を共有した。
中学部	1 キャリア教育における場に応じた言動を重視し、生徒がその場に応じた挨拶をすることができるよう指導支援する。	1 朝の会や終わりの会で、その場に応じた挨拶を、日番や教師の号令に合わせて行う。音声だけでなく、手話や文字・絵カードなど、個々に応じた表現方法を、必要に応じて工夫する。	1 その場の状況に応じた挨拶を促すことができたか。また、個々に応じた表現方法を工夫することができたか。	1 朝の会や終わりの会で、号令に応じてその場に適した挨拶ができるように、発声や手話、文字・絵カード等を使用するなど個々に応じた支援を工夫した。また、廊下などで出会った人々に挨拶ができるよう、教師が見本を示したり動作を促したりして支援した。
	2 キャリア教育における習慣形成を重視し、生徒が必要時に手を洗う習慣を身に付けられるように指導支援する。	2 教室に戻ってきた時や給食準備時に、手を洗うように促す。必要に応じて、個々に応じた支援の工夫を行い、習慣化できるようにする。	2 教室に戻ってきたときや給食準備時に、手を洗うように促すことができたか。生徒が手を洗う習慣を身に付けられるよう継続して指導できたか。また、個々に応じた支援の工夫ができたか。	2 外出後や給食前に手を洗うことを促した。必要に応じて教師と一緒に手を洗うなど個々に応じた支援を工夫しながら、全員が確実に手洗いをしたことを確認するという取り組みを継続した。
高等部	1 生徒が「あいさつ」「返事」「協力」「自立」の大切さを理解し、適切に行動できるように指導支援する。	1 授業、HR、行事など学校生活すべての場面で意識しながら、自然とできるように習慣化する。できないときは繰り返し返す。	1 登校時や授業開始時、終了時、終わりの会その他、それぞれの場面で、個々の生徒に応じた表現や行動を適切に支援できたか。	1 登校時や授業開始、終了の挨拶の指導を日々継続し、よくできた時には、積極的に褒めるように心掛けた。不十分な時には、正しい方法を示して再度取り組むように促した。特に実習に向けて、正しい姿勢を意識し、声の大きさなどに留意した指導を実施した。また修学旅行に向けて事前学習では、全ての生徒に係を割り当て、責任を持って役割を果たすことができるように促すとともに、「協力」することの大切さを強調した。
	2 生徒が、自分のことだけでなくまわりの友だちのことを考え、言葉かけや手助けをすることができるように指導支援する。	2 「他者理解」の大切さを様々な授業やHRで指導するとともに、友だち思いの言動があった時には褒める。	2 自分のことだけでなく、友だちの意見や行動に関心したり、相手の立場にたった発言や行動があったときに、それを褒め褒めることができたか。	2 友だちが困っている場面で、周囲にその状況を伝え、自主的に手助けできるような雰囲気を作り出すように働きかけた。クラス活動や係活動において、役割分担をする際、お互いの個性を尊重し合えるよう指導、助言をした。相手のことを考えての発言や行動があった時には即座に褒め、自信を持って行動を継続できるよう支援した。
分教室	1 生徒が相手の気持ちや考えを理解し、仲間と協力することの大切さに気付くように指導支援する。	1 授業や特別活動の中で生徒同士が話し合い、協力して活動する経験を多く積ませる。	1 生徒同士の話し合いの場や、生徒同士が協力して活動する経験を確保できたか。	1 友だちの長所、余暇活動、地震の際の避難行動、修学旅行の行程など、様々なテーマについてグループに分かれて意見を出し合い、発表し、共有する経験を積ませた。体育祭ブロック演技の練習では、友だちと教え合う機会を確保した。
	2 生徒が将来の職業生活に必要な集中力や報道相の習慣を身に付けられるように指導支援する。	2 校内実習、現場実習、職業の時間等を通して、長時間にわたる集中力の持続と報道相の定着を図るために、個々に合った目標を設定することができたか。	2 作業に対する集中力の持続を伸ばし、報道相を習慣づけるために、個々に合った目標を設定することができたか。	2 作業し続けることの大変さを体感できるよう、畑作業や校内実習では長時間の作業を設定した。報道相については、「作業ができました」等のセリフだけでなく、自分の作業内容を確認してから報告を行習慣が身につくようにその都度促した。
訪問教育	1 生活のリズムを整え、継続して学習に取り組むことができるように、家庭、医療、福祉との連携を図る。	1 授業形態や学習内容、時間設定に配慮ができるよう、家庭と連携を大切にし、医療・福祉関係者と連絡をとり、児童の現状を把握する。	1 家庭や各機関と連携し、情報を聞き取って児童の現状を把握できたか。また、それらを授業計画に活かすことができたか。	1 コロナウイルス感染症の流行により学習時間や授業内容、授け方などを家庭や医師と相談、確認しながら取り組んできた。また、より良い生活をおくれるように福祉と連絡を取り合い情報交換を行った。
	2 スクーリングや校外学習等、家庭以外での学習の機会を充実させる。	2 受け入れクラスや学年、学級の教師と積極的に連携を図り、よりよい授業を行うための共通理解を深める。	2 交流クラスの教師と連携を図り、協力して児童の学習の機会を充実させるための工夫をすることができたか。	2 コロナ禍の影響により、家庭や医師と相談し本年度はスクーリングを中止した。ただし小学部6年の児童については、医師の指導の下、福祉や受け入れ学年との連携、協力により修学旅行を実施した。

評価基準

A(4):よくできた

B(3):できた

C(2):あまりできなかった

評価基準

A(4):はい そう思う

B(3):どちらかといえばそうである まあそう思う

C(2):どちらかといえばそうではない あまりそう思わない

D(1):いいえ そう思わない

アンケート項目(保護者)					
取り組みについて	評価	評価グラフ	取り組み効果について	評価	評価グラフ
0-①重点目標の内容について、学校での取り組みの様子など、連絡帳や通信等での発信はありましたか。 0-②重点目標の内容について、ご家庭でのお子様の様子などを学校は聞き取ることができていましたか。 0-③重点目標の内容について、学校はよく取り組んでいたと思いますか。			1-①あいさつや呼名への応答について、お子様の変化や成長を感じられますか。 2-①マスクの着用について、お子様の変化や成長を感じられますか。 2-②手洗いうがいのについて、お子様の変化や成長を感じられますか。	3.35	
0-①重点目標の内容について、学校での取り組みの様子など、連絡帳や通信等での発信はありましたか。 0-②重点目標の内容について、ご家庭でのお子様の様子などを学校は聞き取ることができていましたか。 0-③重点目標の内容について、学校はよく取り組んでいたと思いますか。	3.32		1-①個々に応じた表現方法で場に応じたあいさつをすることについて、お子さまの変化や成長を感じられますか。 2-①手洗いの習慣について、お子さまの変化や成長を感じられますか。	3.35	
0-①重点目標の内容について、学校での取り組みの様子など、連絡帳や通信等での発信はありましたか。 0-②重点目標の内容について、ご家庭でのお子様の様子などを学校はよく取り組んでいたと思いますか。	3.14		1-①個々に応じた表現方法で場に応じたあいさつをすることについて、お子さまの変化や成長を感じられますか。 2-①手洗いの習慣について、お子さまの変化や成長を感じられますか。	2.98	
0-①重点目標の内容について、学校での取り組みの様子など、連絡帳や通信等での発信はありましたか。 0-②重点目標の内容について、ご家庭でのお子様の様子などを学校はよく取り組んでいたと思いますか。	3.23		1-①「あいさつ」「返事」について、お子様の変化や成長を感じられますか。 1-②「協力」について、お子様の変化や成長を感じられますか。 1-③「自立」について、お子様の変化や成長を感じられますか。 2-①「他者理解(思いやり)」について、お子様の変化や成長を感じられますか。	3.08	
0-①重点目標の内容について、学校での取り組みの様子など、連絡帳や通信等での発信はありましたか。 0-②重点目標の内容について、ご家庭でのお子様の様子などを学校はよく取り組んでいたと思いますか。	3.48		1-①一人ひとりの生徒が、個々に合う方法で、あいさつや返事の方法を身に付けることができたか。 1-②一人ひとりの生徒が、「協力」「自立」の意識を高めることができたか。	3.42	
0-①重点目標の内容について、学校での取り組みの様子など、連絡帳や通信等での発信はありましたか。 0-②重点目標の内容について、ご家庭でのお子様の様子などを学校はよく取り組んでいたと思いますか。	3.35		1-①一人ひとりの生徒が、相手の気持ちや考えを理解できるようになったか。 1-②一人ひとりの生徒が、仲間と協力することの大切さに気付くことができたか。	3.29	
1-①学校は、ご家庭や関係機関と連携することができていますか。 2-①学校は、家庭以外での学習機会を安全かつ充実させて提供できましたか。	3.00		1-①お子様は、安心安全な環境で授業を楽しまれていますか。 2-①家庭以外での学習機会には、お子様にとって有意義な学習となりましたか。	4.00	

成果と今後の課題
キャリア教育における挨拶を重視し、学部の継続目標として取り組んだ。新しい生活様式の中で握手やスキップによる挨拶の仕方は制限されたが、9割を超える評価を頂いている。さらに挨拶表現の方法や場面設定を工夫し、生活の中で自然と活かされるよう取り組んでいきたい。
マスクの着用、手洗いうがいの習慣化について、コロナ以前の着用率、実施率に比べ、習慣化され今回のAB評価に表れている。ご家庭でのマスク着用の取り組みや準備マスクの持参等、ご協力頂き大変有難かった。マスクの着用方法について、鼻と口を覆えるか、常時着用できているか等、正しい着用ができていく大切なという基準において、口元からずれていたり、マスクが濡れていたり十分に徹底できていない部分でD評価になっていると考えられる。総体的にはよく着用できるようになっているが、正しい着用の仕方、マスクの管理も含め、引き続き取り組んでいく必要がある。
挨拶の指導は、キャリア教育および学びの連続性という観点から、小学部、高等部と連携して取り組み、職員、保護者への評価が改善された。これからは社会的自立につながるよう、教育活動の基本事項として指導を継続したい。
手洗いの指導は、感染症対策として学校生活だけでなく、家庭においても重要視されていることもあり、一定の成果をあげることができた。今後とも、大切な生活習慣のひとつとして、手洗い習慣の確立に向けた支援を継続していきたい。
キャリア教育の観点から学校生活全般で継続して「挨拶」「返事」を集中的に指導した。自然に大きな声で挨拶できる生徒が増えており、習慣化されてきている。行事などを通して、友だちと協力していく大切さも個々の生徒の実情に合わせることができた。引き続き、場面に応じた言葉遣いを含めた表現方法や、行動ができるように支援していくことが今後の課題である。
まず自分を知り、相手を知ることの大切さを指導した。授業やホームルームなどで友だちに優しい言葉かけをしたり、手を差し伸べる姿も見られた。個々の生徒は教師や友だちとの関係の中で日々成長しているが、今後も、自分のことだけでなく人を「思いやる」ことの大切さを伝えていく必要がある。
交流体育祭のブロック演技の練習の際、学年縦割りのグループで取り組んだが、生徒同士が教え合う場面が多く見られた。県立猪名川高等学校との共同アート作品の話し合いでは、高校生の意見に耳を傾けながらも、例年以上に分教室生徒が多くの意見をのべていた。少人数同士での作業しかできなかったが、協力して大きな作品を完成させる喜びを今年も味わうことができた。普段の授業でも、機材の準備や片付けの場面で、生徒同士が声をかけあいながら助け合う場面が多く見られるようになってきた。自分の意見を人前に述べることもできた生徒、自発的に動くことができた生徒、人の役に立つ行動ができた生徒をほめながら、少しずつその数を増やしていきたい。
分教室は1コマ75分の授業である。座学だけでなく、夏や冬の畑作業や清掃作業など、楽ではない環境の中での作業にも少しずつ慣れながら、「体力」「集中力の持続」を徐々に身につけることができていく。今後は、1つ1つの活動に意欲的に取り組む姿勢をさらに育てられるよう、指導支援の工夫改善を図る必要がある。授業のねらいや大切さをわかりやすく丁寧に説明し、生徒が理解、納得して取り組む場面を増やしていきたい。「報道相」については校内実習を通して学年以外の教員にも少しずつ言えるようになった。今後は現場実習等、学校外の場面でも自信をもってしっかり言えるように指導支援を行いたい。
医師の指導の下、保護者と相談しながら適切に授業を再開することができた。また、様々な状況に応じて、ヘルパーや相談支援員と情報の交換、連携を行いながら授業を行うことができた。保護者からは、「今日もいい顔で勉強できたね」と声をかけていただいた。ちょっとした気温の変化で体調を大きく崩すこともある。子どもたちにとって必要な支援は何か、保護者の思いも大切に読み取り、学校としての役割を明確にしながら、進めていきたい。
医師の指導の下、今年度はスクーリング学習は中止とした。ただし、修学旅行は、保護者、主治医、ヘルパーと相談しながら実施することができた。同級生たちや先生たちも温かい雰囲気を受け入れてくれ、感動的な修学旅行となった。また、スクーリングの代わりに、できる限り本校生と同じ授業内容に取り組んだり、学年の学習の動画を見て、学校の様子を感じられるように工夫することができた。今後は、スクーリングが再開できることを願い、保護者や各種関係機関と連絡、調節を図りながら準備をしていきたい。

令和2年度 学校評価(自己評価) 兵庫県立こやの里特別支援学校

学校目標 「子どもが育つ学校～こころ・からだ・きずな」

学校教育方針

「児童生徒一人ひとりの可能性を可能な限り伸ばし、社会の一員として自立し、自己

令和2年度 学校自己評価目標

- (1)安全・安心で美しい学校をめざします。
- (2)学校・家庭・地域・関係機関との連携の充実を図ります。
- (3)校務の情報化推進を図り、効率的な校務運営を行います。
- (4)校内研修を充実させ、教職員の資質向上を図ります。
- (5)社会的自立に向けたキャリア形成の支援に努めます。

学部・分掌目標		具体的な取り組み	評価指標	達成状況(今年度実績)
支援部	1 全校児童生徒の支援の状況を把握し、校内の関係部署や外部の関係機関と有効につながり支援する。	1 「校内支援に関するアンケート」や日頃の聞き取りで担任から得た情報を、校内の関係部署と共有し、福祉や専門家につないで支援する。	1 アンケートの結果や日頃得た情報を共有することができたか。また、必要に応じて校内外の部署や機関と連携を図り、協力して有効な支援を行うことができたか。	1 休校中の家庭からの情報や日々の様子、アンケート結果を共有した。必要に応じて校内外の部署や機関と連携を図り、有効な支援に努めた。
	2 個別的教育支援計画に児童生徒の実態や支援・連携の実態を適切に記載し、保護者と合意形成を図る。	2 保護者から得た情報や児童生徒の行動観察から得た情報をもとに、担任間で話し合っって個別的教育支援計画を作成し、懇談等で保護者との合意形成を図る。支援部を中心に記載内容の点検を行う。	2 支援・連携の実態を保護者から書面や懇談等で聞き取り、児童生徒の観察を丁寧に行いながら、個別的教育支援計画を適切に作成することができたか。また、その内容について、保護者と合意形成を図ることができたか。	2 書面や懇談等で保護者から聞き取った情報や日々の観察の中で得た情報を担任間で共有し、保護者と合意形成を図った上で、その都度最新の情報に更新し、個別的教育支援計画を作成した。作成に関しては、複数の支援部員による点検を行い、記載内容を確認した。
総務部	1 「学校の新しい生活様式」を踏まえながら、学校からの情報発信を積極的に行い、保護者や地域への啓発活動等に取り組む。	1 ホームページやオープンスクール、学校紹介パンフレット等を通して、本校の魅力や取り組みが伝わるよう、日常の様子、行事に関わる取り組み、学校からの案内等、各分掌や学部と連携して更新する。	1 ホームページやオープンスクール、学校紹介パンフレットにおいて、児童生徒の日常の様子や学校行事、入学案内等、伝えたい情報を迅速に発信できたか。	1 ホームページにおいて、日々の様子や行事のログアップのほか、休校中の学習保障の取組として、各学部学年や教科、また管理職、保健室等から動画を配信したり、学校紹介ビデオを掲載した。動画配信にあたっては、本校関係者以外閲覧できないようにパスワードを設定した。
	2 会議を効率よく行い、職員が健康で働きやすい職場環境の整備をすすめる。	2 資料を事前に配布し、話し合う要点をわかりやすく表記することで、時間内に会議を終了させたり、書面での開催に替えたりして情報共有する。ノー会議デー、定時退勤日(こやデー)を週1回設定し、職員の意識改革を図る。	2 会議時間を予定時間内に終了する等、事前の働きかけにより、会議や職員朝礼をより効率よく行うことができた。また、連絡ボードに定時退勤日や定時退勤デーと定時退勤日を計画通りに行うことができたか。	2 要点をまとめて提案を行うことや、書面での開催で共有する等、事前の働きかけにより、会議や職員朝礼をより効率よく行うことができた。また、連絡ボードに定時退勤日や定時退勤デーと定時退勤日を計画通りに行うことができた。
教務部	1 「特別支援学校 学習指導要領」について周知し、指導要領に基づく教育課程の編成、実施をはかる。	1 「学習指導要領」の内容について、職員の研修の機会を持つ。また、「学習指導要領」に基づく教育課程について、教育課程委員会での協議を行う。	1 「学習指導要領」の内容について、職員の研修の機会を持つことができた。また、「学習指導要領」に基づく教育課程について、教育課程委員会での協議を行うことができたか。	1 「学習指導要領」の内容について、県教育委員会の研究で協議会資料をもとに、全職員を対象に職員研修を行った。また、「学習指導要領」について、教育課程委員会、中学部の全面実施に向けて等の協議を行った。
	2 ICT機器活用について研修を進め、児童生徒への活用を考える。	2 ICT機器活用について、研修の機会を設定する。	2 ICT機器活用について、研修することができた。また、児童生徒への活用を考えることができたか。	2 「学びのイノベーション事業」で導入されたICT機器について、学年等の要請を受けて説明の機会を持った。また、企業より講師を招いて、電子黒板の活用について研修を行った。
進路指導部	1 地域の福祉事業所・企業・関係機関と情報交換を積極的に行い、連携・協力を深め、適切な進路指導を進める。	1 メール、電話、訪問など、適切な手段で関係機関とやり取りができた。また、ホームページの更新や進路通信の発行が適切に行えたか。	1 適切な手段で関係機関とやり取りができた。また、ホームページの更新や進路通信の発行が適切に行えたか。	1 事業所や状況に合わせて、メール、電話を使い、必要に応じて訪問しながらやり取りを行った。進路通信はコロナ禍で説明会などが開催できなかったため、内容を吟味し通常より多く発行し、併せてホームページへの掲載も行った。
	2 分掌内の資料、データの共有化を図り、効率よく仕事を進める。	2 本校内で学年進路資料を共有する。分教室とはファイルサーバーを活用し連携する。	2 校内のICTを有効に活用しながら、校内の各部署と情報を共有し連携できたか。	2 分教室とはファイルサーバーを活用することで、効率よく共有し連携ができた。年度内の作業完了を目指して、本校内の学年進路資料の整理を進めている。
生徒指導部	児童生徒の心や体を守る環境づくりを行う。	1 登下校時の感染症対策に取り組む。	1 保健部など他の分掌とも連携しながら、感染症対策ができたか。	1 保健部からのガイドラインに従い、介助員とも連携し、スクールバス内での換気や消毒を徹底した。また、一定期間ではあるがスクールバスの増車(5台)を行い、乗車率を下げて運行した。自力通学生には、登下校時の感染症対策について、時間を確保して指導を行った。
	2 児童生徒会活動を活性化させる。	2 児童生徒会選挙(役職・任期・内容)を見直し、主体的な生徒会活動を促すことができたか。	2 役職、任期を見直し、児童生徒会選挙(12月22日)を行う予定である。また、コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながら、児童生徒会の意見をもとに例年の行事を見直し、卒業生を送る会などの行事を1日行事として行う予定である。	2 役職、任期を見直し、児童生徒会選挙(12月22日)を行う予定である。また、コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながら、児童生徒会の意見をもとに例年の行事を見直し、卒業生を送る会などの行事を1日行事として行う予定である。

評価基準

A(4):よくできた

B(3):できた

C(2):あまりできなかった

評価基準

A(4):はい そう思う

B(3):どちらかといえばそうである まあそう思う

C(2):どちらかといえばそうではない あまりそう思わない

D(1):いいえ そう思わない

アンケート項目(保護者)					
取り組みについて	評価	評価グラフ	取り組み効果について	評価	評価グラフ
支援部			1ー①学校は、校内外の関係部署や機関と連携しながら、お子さまや保護者の方に必要な情報や支援を提供することができていますか。	2.98	
			2ー①個別的教育支援計画の説明は、わかりやすかったですか。	3.45	
総務部			1ー①学校のホームページから、必要な時に必要な情報を得ることができましたか。	2.77	
			2ー①学校教育において、ICT機器の活用についての準備が進められていると感じますか。	1.74	
教務部			1ー①「学習指導要領」の内容について理解することができたか。1ー②「学習指導要領」に基づく教育課程について、議論を深めることができたか。	3.05	
			2ー①ICT機器の使用方法を理解できたか。2ー②児童生徒の学習活動に具体的に活用することができたか。	3.11	
進路指導部			1ー①関係機関との連携を進路指導に生かされたか。1ー②ホームページの更新や進路通信の発行により、必要な情報を提供できたか。	3.15	
			2ー①ICTを活用することで、業務の効率化を図ることができたか。	3.05	
生徒指導部			1ー①対策により、感染や感染拡大を防止することができたか。	3.48	
			2ー①児童生徒会選挙についての見直しがあったか。2ー②児童生徒会は主体的に活動することができたか。	3.23	

成果と今後の課題

児童生徒の支援の状況を校内外の部署や関係機関と共有し、有効な支援に努めた。引き続き、校内外での連携を大切にし、適切な対応を考えていきたい。トライアングルプロジェクトを推進し、放課後等デイサービスの関係機関と連携してより有効な支援のネットワークを築くことが今後の課題である。保護者に向け、連携についての積極的な情報発信にも努めたい。

保護者や児童生徒の行動観察の中から得た情報をもとに、保護者と合意形成を図った上で個別的教育支援計画の作成を行った。今年度は、新型コロナウイルスによる休校により、年度当初の学年懇談会が実施できず、支援部からの個別的教育支援計画の説明は書面のみとなった。より保護者にわかりやすく説明できるように、今後も担任と連携し取り組んでいく。

ホームページにおいて、日々の様子や行事のログアップの他、休校期間中は教材となる動画配信を行う等、学習保障を担う一つの方法として発信した。今後は、引き続き行事だけでなく、日常の授業や教材紹介等、ログ更新の機会を増やしていく。使いやすく見やすいホームページを目指し、行事予定や案内等、正しい情報をわかりやすく掲載できるよう努め、本校の魅力や取り組みを積極的に発信していきたい。

会議に向け事前に議題や資料をまとめて配付したり、可能な範囲で書面開催にするなど、効率のよい会議設定に努めた。今後も行事の整理や校務分掌、委員会組織の見直しを更に進めることで、会議日を減らしていく。また、仕事量が大幅に偏らないような業務分担を検討したり、協力し合ったりしながら、職員一人一人の意識を高め学校として働き方改革を実現できるよう工夫していく。

新しい学習指導要領について、教育課程委員会で議論を深め、研修会を実施することで全職員に周知することができた。引き続き、検討と周知を行い、3つの柱に基づく目標設定、指導を充実させ、3観点に基づく評価が実施できるように取り組んでいく必要がある。

ICT機器の使用について研修を行い、使用方法等について周知することができた。引き続き、他校での取り組みを紹介したりすることで、より効果的な指導・支援につながるよう取り組んでいく必要がある。

保護者参加の説明会等開催できなかったものが多く、資料配布とした。資料はよりわかりやすくすることを心掛け、丁寧に作成した。進路通信も発行を増やし情報提供・発信を行い、ホームページに掲載した。今後も情報発信の仕方を工夫し、よりわかりやすいものを心掛けていく。

進路懇談会を中心に日頃より連絡帳を通じて質問・相談・事業所見学等のやりとりを行い、連携できた。より保護者の思いをくみ取り、理解を深めるよう丁寧な対応をしていく必要がある。関係機関との連携は対面・電話・メールを使用し、状況に合わせて必要な連絡を取り合うことができた。

本校のガイドラインに沿って、介助員とも連携し、スクールバス内での換気や消毒を徹底することができた。ご家庭の協力もあり、多くの児童生徒がスクールバス内でマスクを着用して乗車することができた。また、一定期間ではあるがスクールバスの増車(5台)を行い、乗車率を下げて運行した。自力通学生には、登下校時の感染症対策について、時間を確保して指導を行うことができた。今後も上記の感染状況を踏まえた対策を徹底しながら、安全安心に登下校ができるように努めていきたい。

役職、任期を見直し、児童生徒会選挙を行うことができた。児童会長の役職も作り、小学部の児童がより児童・生徒会に参加できるための土台作りができた。任期を見直すことで、4月の新年度へ向けて児童生徒会がスムーズに移行できるようになった。感染症対策をとりながら、役員会の規模も変更しながら、児童生徒会の意見をもとに例年の行事を見直し、卒業生を送る会などの行事を1日行事として行う予定である。今後は、児童生徒会の取り組みのさらなる充実とともに、保護者の方への情報発信が課題である。

令和2年度 学校評価(自己評価) 兵庫県こやの里特別支援学校

学校目標 「子どもが育つ学校～こころ・からだ・きずな」

学校教育方針

「児童生徒一人ひとりの可能性を可能な限り伸ばし、社会の一員として自立し、自己

令和2年度 学校自己評価目標

- (1)安全・安心で美しい学校をめざします。
(2)学校・家庭・地域・関係機関との連携の充実を図ります。
(3)校務の情報化推進を図り、効率的な校務運営を行います。
(4)校内研修を充実させ、教職員の資質向上を図ります。
(5)社会的自立に向けたキャリア形成の支援に努めます。

自己評価項目(教員)				
学部・分掌目標	具体的な取り組み	評価指標	達成状況(今年度実績)	
保健部	感染症対策に努める。	1 家庭と連携し日々の健康観察を行う。また各部とも連携を行い、学校が一体となった感染症予防対策を推進する。	1 保護者に文書を配布し周知するとともに、家庭と連携して健康観察の状況把握を行うことができた。また、各分掌と連携し感染症予防対策を推進することができた。	1 家庭と連携し、連絡帳を通じて日々の健康観察のやりとりを行った。また「ほけんだより」や「給食だより」を通して感染症対策について保護者に周知を行った。スクールバスの感染症対策を始め、各部と連携し、全校での感染症予防対策の推進を図った。
		2 児童生徒には、学習を通して、感染症について正しく理解させ、予防する能力や態度を育成する。	2 学習教材の作成および活用ができた。	2 全学部で、特別活動や教科学習、また学校行事を通して、感染症対策の学習を行った。また正しい手洗いの方法やマスクのつけ方等、動画教材を作成し、学習時にも活用した。
	3 給食提供における感染症対策を推進する。	3 給食室の環境改善、献立変更等を行うことができた。	3 給食室の日々の消毒作業を始め、給食の献立の内容や品数等も含めた提供方法について、状況に応じてその都度見直しを行い対応した。	
研究部	1 児童生徒に「つけたい力」を達成するために、実態把握を適切に行う。また、授業における具体的な評価の観点を設定し、それに基づいた授業改善を学部学年で共有する。	1 研究日等を活用し、新しい生活様式を踏まえながら児童生徒の実態把握を行う。観点別評価シートを活用して、授業前後の評価を行うことで、一人ひとりに適した支援方法を考える。	1 適切に児童生徒の実態把握ができた。また、研究日の取組を明確化し、学年で相談しながら授業づくりができた。事後の反省会でも次の授業につながるような取組の振り返りができた。	1 各学年において、コロナ禍の状況に応じながら、研究日等を活用して、研究する教科を決定し、実施計画を検討した。授業における評価の観点を検討し、それに応じて、子どもの実態を「見える化」することで、学習集団全体への支援や個に応じた支援方法(人の支援、物の支援等)を考える機会を確保した。
	2 公開授業や研修会等を通して、PDCAサイクルに基づいた授業づくりを学び、日々の授業に活用する。	2 感染防止を念頭におきながら、校内研修会の内容、方法等を検討する。同様に、公開授業においても取り組み方、参観方法等を検討する。	2 校内研修の内容や方法を検討し、日々の授業づくりに活用できる情報等を職員に提供できた。	2 コロナ禍の影響を受けながらも、全学部学年において研究公開授業を実施することができた。その都度授業反省会を行い、授業者や参観者による意見交換の時間を確保した。校内研修会については、コロナ禍の影響により夏季休業中に1度のみ行ったが、研究テーマの「一人ひとりの実態・目標・評価を考えた授業づくり」に関する講演を聞くことで、日々の授業づくりの参考になったという意見が多かった。
自立活動部	1 変化する情勢に対応しながら、児童生徒の心身の状態に応じた実態把握・課題設定を行い、指導を展開する。	1 分散登校や限られた登校日に合わせて児童生徒の実態把握を行う。新しい生活様式に対応しながら、児童生徒が見通しを持ち、安心して取り組める具体的な指導内容を検討し、実施しながら改善する。	1 変化する情勢(登校日数の減少)や新しい生活様式に対応しながら、自立活動の指導計画を作成し、個々の状態に応じた指導を実施することができた。	1 各学年、コロナ禍の状況に合わせて、感染予防の配慮を行いつつ授業を実施し、指導計画に基づいた継続的な指導に取り組んだ。各学部学年の児童生徒の実態に合わせてグループ編成や電子黒板などの視聴覚機器を活用し、制限のある状況下でも効果的な指導を工夫した。
自己評価項目(教員)				
保健部	取り組みについて	評価グラフ	取り組み効果について	評価グラフ
	1ー①保護者に文書を配布し周知できたか。 1ー②家庭と連携して健康観察の状況把握を行うことができたか。 1ー③各分掌と連携して感染症予防対策を推進できたか。	3.51	1ー①必要な情報を保護者に周知し協力を得ることができたか。 1ー②各分掌と連携しながら、学校として一貫した感染症対策を徹底できたか。	3.51
研究部	2ー①学習教材の作成及び活用ができたか。	3.26	2ー①学習を通して、児童生徒に感染予防の意識や態度が身についたか。	3.30
	3ー①感染症対策のための給食室の環境改善を行うことができたか。 3ー②感染症対策のための献立変更等を行うことができたか。	3.41	3ー①安全性の高い給食を滞りなく提供することができたか。	3.42
自立活動部	1ー①適切に児童生徒の実態把握ができたか。 1ー②研究日の取り組みを明確化できたか。 1ー③学年で相談しながら授業づくりができたか。 1ー④次の授業につながる振り返りができたか。	3.26	1ー①授業改善についての取り組みを学部学年で共有し、教育効果を上げることができたか。	3.24
	2ー①校内研修の内容や方法を検討できたか。 2ー②日々の授業づくりに活用できる情報等を職員に提供できたか。	3.23	2ー①有意義な校内研修や情報をもとに、PDCAサイクルに基づいた授業づくりができたか。	3.19
自己評価項目(教員)				
自立活動部	1ー①新しい生活様式に対応しながら、自立活動の指導計画を作成できたか。 1ー②新しい生活様式に対応しながら、個々の児童生徒の状態に応じた指導を実施することができたか。	3.32	1ー①新しい生活様式に対応しつつ、個々の実態に即した指導を展開し、教育効果を上げることができたか。	3.28

評価基準

A(4):よくできた

B(3):できた

C(2):あまりできなかった

評価基準

A(4):はい そう思う

B(3):どちらかといえばそうである まあそう思う

C(2):どちらかといえばそうではない あまりそう思わない

D(1):いいえ そう思わない

アンケート項目(保護者)					
取り組みについて	評価	評価グラフ	取り組み効果について	評価	評価グラフ
保健部			1ー①学校の感染症対策について、わかりやすくお伝えすることはできていましたか。	3.16	
			2ー①学校での学習を通して、お子さまには感染症予防についての理解や意識、習慣等が高まったと感じられますか。	2.71	
			3ー①感染症対策のための献立変更は適切でしたか。	2.65	
研究部			1ー①学校の授業は、お子さまに合っていますか。	3.24	
自立活動部					

成果と今後の課題

ご家庭の協力のもと、連絡帳を通して児童生徒の日々の健康状態を知ることができ、様子や体調の変化にいち早く気付くことができた。1年を通して例年より感染症による欠席者も少なく過ごすことができた。来年度も、今年度のつながりを絶やさずにご家庭を始め関係機関、校内における連携を図っていきたい。また情報発信については、紙媒体とホームページからなど、複数から発信できるように努めていく。

手洗い方法や正しいマスクのつけ方を始め、感染症について、各学部で実態に応じた学習をすることができた。今後も、定期的に学習を継続することによって定着を図っていきたい。また次年度も対策を継続していく上で、児童生徒の不安を少しづつでも取り除けるよう、心のケアの視点も欠かさずに取り入れていく。

関係機関の専門家のご助言を始め、近隣校の状況等も参考にしながら、本校の給食における感染症対策を考え、毎月見直しを行った。今後も引き続き、各関係機関と連携を図りながら、児童生徒により安全性の高い給食が提供できるよう、状況に応じた対策を進めていく。

今年度から新しい研究テーマ「一人ひとりの目標・手だて・評価を考えた授業づくり」とし、授業研究に取り組んだ。全学部学年で研究授業を行い、研究日等を活用して学部学年の全教員で授業事例を共有して意見の交換を行った。授業における評価の観点を明確化し、子ども一人ひとりの実態やつけたい力を検討することができた。また、反省会等で評価や改善案を検証した。今後、コロナ禍で研修会の回数が取れない場合に、開催方法の工夫が必要である。研究方針をさらに職員に周知できるように考えたい。来年度はさらに新学習指導要領の観点を加えた研究計画や指導案をもとに授業づくりに取り組み、授業研究を進めたい。

今年度は、コロナ禍で従来の指導から新しい生活様式に応じた指導への転換が求められる一年であった。指導期間も1期制となったが、各学部とも、制限された条件と期間の中で、個々の児童生徒に応じた指導を進めることができた。特に、発声指導やコミュニケーション指導においては、電子黒板の活用等の工夫が行われていた。今後も、校内外の情報交換を活発に行いながら、個々のニーズにより対応した指導を充実していきたい。